

農学部

College of Agriculture

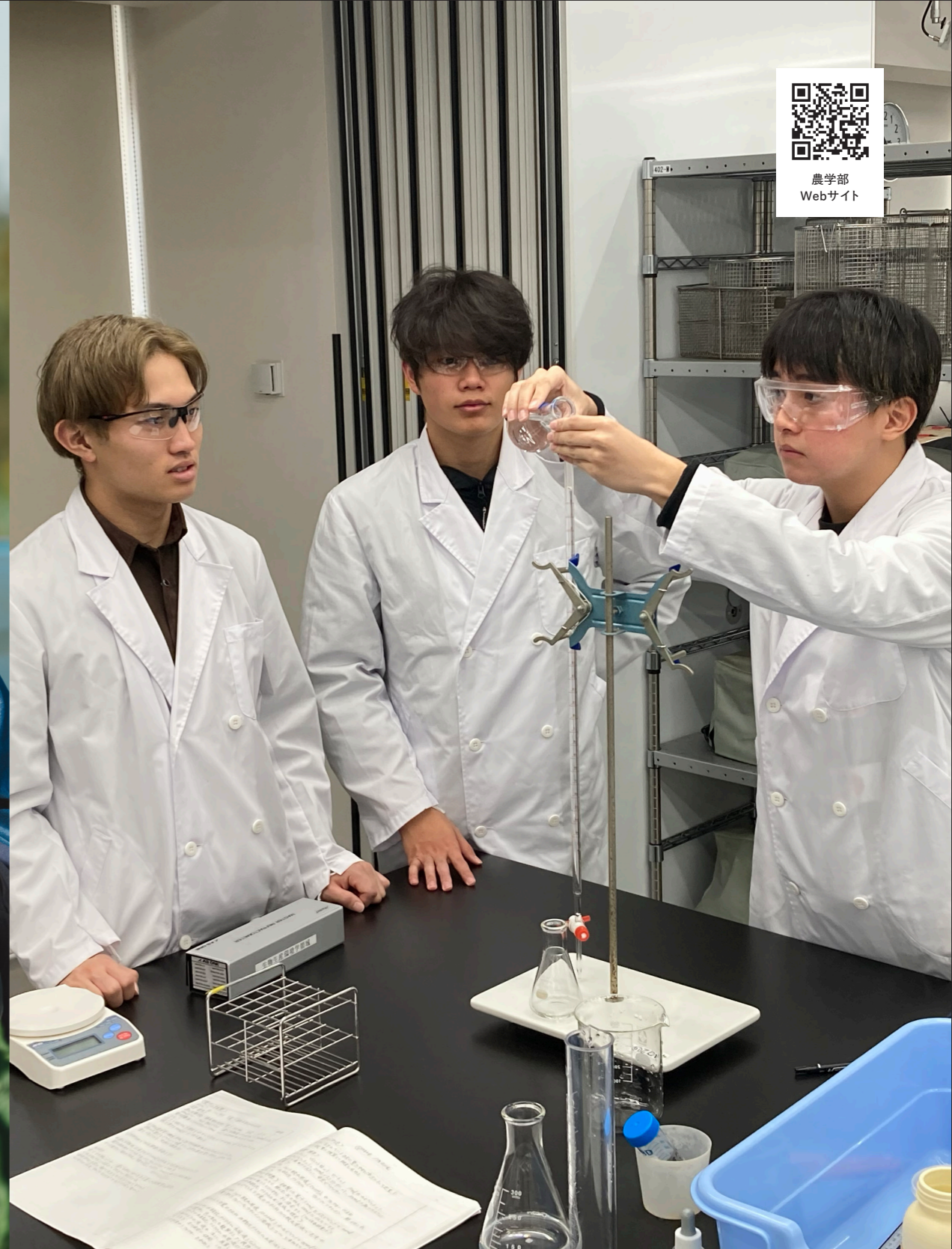
- | 生産農学科
- | 生産農学科 理科教育コース
- | 環境農学科
- | 先端食農学科

世界を舞台に農学の 新たな可能性を 模索する人を育てる

玉川大学農学部は、農学分野を単一学部を集約し、対象を原子・分子から個体群レベルまで幅広く捉え、実物から学ぶことで、専門性の枠を超えた新たな発想の創出を目指します。

学内には約4haの農場や実験室、生産加工室など、実践的な学びのための施設が充実しており、北海道、鹿児島、カナダといった学外施設も活用して、現地固有の問題を発見する機会を提供。

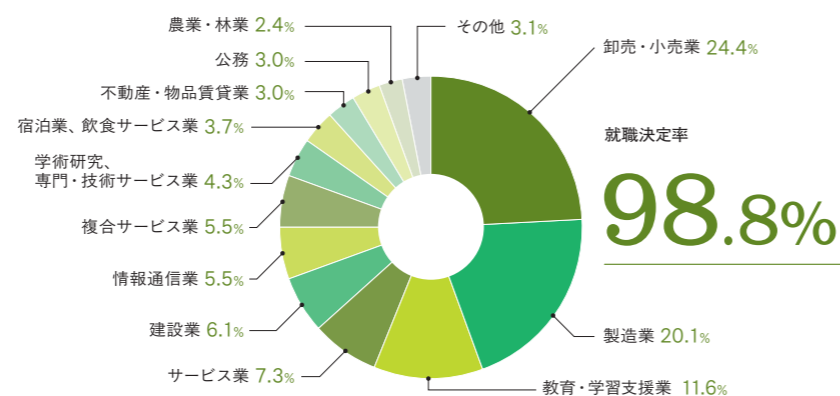
また、ワンキャンパスの総合大学の利点を活かし、芸術学、工学、観光学などを学ぶ学生と連携して社会問題のテーマに取り組みます。異分野の視点から意見を出し合う活動を通じて、将来に役立つ異分野融合思考を養います。



農学部
Webサイト

就職状況・主な就職先 [2025年3月卒業生実績]

農業・食品産業技術総合研究機構／オーケー／グリコマニファクチャリングジャパン／産業経済新聞社／全農パルライス／日本農業／農林水産省／フラワーオークションジャパン／防衛省海上自衛隊／町田市役所／森永乳業／山崎製パン／イカリ消毒／キューピー／キューピータマゴ／食品環境検査協会／高梨乳業／日東工器／雪印メグミルク／ユニバーサル園芸社／公立学校教員／私立学校教員 など



農学部長からのメッセージ

「なぜ？」から深める学び 未来をリードする人を目指して

「食」「生命」「環境」「健康」など第一次産業の枠を超えた広い範囲の学びから、社会の諸問題の課題を発見し、解決に向けた提案のできる人を育てることが農学部の役割です。理論を身に付け、実物に触れ、現場で経験する学びから、持続可能な開発目標 (SDGs) を見据え、未来をリードする人になることを目指しましょう。日々の生活の中で「なぜ？」と考える知的好奇心そのものが、あなたの魅力です。玉川の学内外にある多彩な学修環境を活用し、ワンキャンパスの総合大学だからできる文理融合の発想に触れながら、学問の基本である「なぜ？」を、農学部の先生方とともに解き明かしていきましょう。



農学部長 成田真一



生産農学科

生物資源コース／生命科学コース

2年次からコースを選択

定員数 130名 男女比率 男76%：女24%

学科Webサイト



シラバス*



※(講義要覧・シラバス照会)をクリックしてください。

総合農学として幅広く学び、
食と農への貢献を目指す

生物資源コース

マクロの視点で食料生産や農業技術の向上に取り組み、フィールドワークを中心とした研究活動によって、食と農の発展に貢献していきます。

- 専門領域と主な研究内容
- 植物科学領域 栽培技術の改良 など
 - 微生物科学領域 農作物の病害防除 など
 - 昆虫科学領域 社会性昆虫の機能利用 など
 - 動物科学領域 動物の行動解析 など

生命科学コース

ミクロの視点で生命現象の本質の解明に取り組み、ラボワークを中心とした研究活動によって、食と農の発展に貢献していきます。

- 専門領域と主な研究内容
- 植物科学領域 遺伝子の機能解析 など
 - 微生物科学領域 微生物由来の有用成分の同定 など
 - 昆虫科学領域 社会性昆虫の生理活性物質の解析 など
 - 動物科学領域 動物の生理学的解析や発生学的解析 など

▶ 4年間の学修の流れと主な開講科目

1年次 農学や生命科学の
基盤となる科目を学ぶ

2年次 各コースの
基幹科目を身に付ける

01 広大な「玉川学内農場」で
知識を経験に変える

都内では唯一約4haという広さを誇る「玉川学内農場」をキャンパス内に有し、野菜、花き、果樹、水稲などの試験栽培が行われています。講義で培った知識・技能をすぐに現場での実践に移す「実践的・体験型の学修」を大切に、深い学びへとつなげています。



02 充実した実験室で理論と
技術を身に付ける

1人1台の顕微鏡を使用した細胞観察など、充実した設備で実験が行われています。実験室での学修をとおして、実験の背景と目的の理解、実験操作の習得、レポートの作成とフィードバックを繰り返し、理論と技術を身に付けます。



03 人々の生活を豊かにする研究が行われています！

植物の力を知り、品種改良を目指す 「植物生理学・植物育種学」

植物の中で進んでいる現象を丁寧に学び統合した上で、バイオテクノロジー技術を含めた品種育成の基盤技術の開発を進めています。

植物科学領域 肥塚 信也 教授

飢餓を減らすことに取り組む 「植物病理学」

植物の病気を予防することは、飢餓を減らすことにつながります。植物の菌類病をはじめ、発生メカニズムの解明や防除法の確立を目指しています。

微生物科学領域 渡辺 京子 教授

昆虫の仕組みを紐解く 「昆虫生理学」

昆虫の行動や器官を調節する脳の仕組み、各器官を調和させて変えるホルモンの仕組みなどについて学び、昆虫の生態や機能利用を紐解きます。

昆虫科学領域 佐々木 謙 教授

生命現象を多角的に捉える 「分子細胞生物学」

環境ストレスや薬剤が、動物細胞の代謝活動やメラニン生成に与える影響を調べ、DNA損傷、遺伝子などさまざまな視点から生命現象を考えます。

動物科学領域 佐藤 一臣 教授

Student's Voice

理論と実験を積み重ね学ぶ日々
仲間に支えられながら深める植物の学び

4年 鈴木 杜和子 (茨城県立土浦第二高等学校 出身)

植物や花に関わることを学びたいという思いから生産農学科へ進学し、現在は植物科学領域で学んでいます。本学科の魅力は、農場と実験室の両方での活動に取り組むことができる点です。農場実習では野菜生産を実際に行い、体験を通して植物への理解を深めてきました。また、実験では授業で得た知識を活用しながら、これまでの学びをさらに深めていくことができています。玉川大学の学生は穏やかで優しい人が多く、安心して学びに向き合える環境が整っています。理論と実験の両方を大切にしながら成長していける学科だと感じています。



3年次 興味や志向に
合わせた専門科目へ

4年次 学びたい専門領域を
究める

セメスター	1・2	3・4	5・6	7・8	
講義科目	<ul style="list-style-type: none"> ●生産農学セミナー ●環境と農業 ●生物学 A ●化学 A ●生物統計学 A ●生物学 B 	<ul style="list-style-type: none"> ●化学 B ●有機化学 A ●分類学 ●科学と教育 ●脳と動物 	<ul style="list-style-type: none"> ●分析化学 ●生態学 ●生物多様性学 ●細胞生物学 ●発生生物学 ●有機化学 B ●昆虫資源学 	<ul style="list-style-type: none"> ●応用動物利用学 ●生化学 ●生物統計学 B ●作物学 ●分子生物学 ●昆虫学 ●微生物学 	<ul style="list-style-type: none"> ●畜産学 ●動物行動学 ●動物生理学 ●果樹園芸学 ●農業化学 ●天然物化学
実験実習科目	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎生物学実験 ●基礎化学実験 	<ul style="list-style-type: none"> ●フィールド実習 A 	<ul style="list-style-type: none"> ●フィールド実習 B ●生物化学実験 	<ul style="list-style-type: none"> ●専門実験・実習 A ●専門実験・実習 B 	<ul style="list-style-type: none"> ●フィールド実習 C ●卒業研究 A ●卒業研究 B ●卒業研究論文
実験実習の項目例	<ul style="list-style-type: none"> ●花の観察 ●細菌の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ●野菜の栽培 ●小農具の使用法 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物活性物質の抽出 ●タンパク質の分離 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業資材を利用した栽培 ●害虫と農薬 	<ul style="list-style-type: none"> ●DNA 抽出 ●社会性昆虫の行動と生態 ●動物の発生機構や恒常性の維持機構

※ 科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。



生産農学科

理科教育コース

理科と農学を幅広く学び、
科学の面白さを伝える教員になる

定員数 25名
男女比率 男59%：女41%

学科Webサイト



シラバス*



※(講義要覧・シラバス照会)をクリックしてください。

学びの特色

理論と実践をバランスよく 学びプロフェッショナルに

体系化された理論に基づき身に付けた知識を持ったうえで、実践的な学びを取り入れ、教育スキルを磨きます。理論と実践をバランスよく学ぶことで、理科や農学科のプロフェッショナルとしての力を身に付けます。

理科・農学科に必要な 技術と知識を理解する

1・2年次に基礎を固め、3・4年次に理科・農学科の授業を行うプロフェッショナルとしての学びを深めます。「教える」の前に、理科・農学科の授業や実験に必要な知識と技術を「理解する」。教員としての素地をつくります。

教育現場経験のある教員の もとで指導力を磨く

実験や実習をとおし、身をもって体験することで、理科・農学科の指導法を修得できます。また、教育現場経験がある教員による指導法のアドバイス、学級運営に関する授業など、実践力を磨くための環境が整っています。

多岐にわたる自然科学の 知識をもつ理科教員に

生物学、化学、物理学、地学の理解を深め、多岐にわたる知識をもった理科教員を目指します。また ESTEAM 教育[※]で、農学知識を活かしたアイデアの創出や課題解決に必要な能力も修得します。(※詳細 P.40へ)

▶ 4年間の学修の流れと主な開講科目

1年次 教職の意義と 基礎理論を学ぶ

2年次 指導法の 基礎を学ぶ

3年次 教科・教職双方の 専門性を養う

4年次 実践力と応用力を 身に付ける

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
学科の専門科目	●生産農学セミナー ●生物学 B	●化学 B ●基礎生物学実験	●基礎化学実験 ●フィールド実習 A	●物理学 ●地学	●有機化学 A ●生化学	●生物統計学 B ●物理学実験	●地学実験	
教職科目	●教育原理 ●教職概論	●学習・発達論	●教育方法・技術論 ●特別支援教育	●教育の制度と経営				
教職関連の専門科目			●理科指導法 I・II ●農業科指導法 I・II	●職業指導 I				
		▶ 参観実習 ▶ 学校体験活動 A		▶ 介護等体験		▶ 学校体験活動 B		▶ 教育実習
			▶ 教育インターンシップ			▶ 教育ボランティア		

※ 科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。

01 専門性と 教員としてのスキル、 両方を身に付ける！

教職科目で正しい技術と指導法を身に付けることはもちろん、さまざまな実験・研究をとおして、実物に触れながら学べるのは農学部ならではの学びです。子どもたちに理科の面白さを伝えるために、深い専門性を身に付けていきましょう。

02 充実した実験室で理論と 技術を身に付ける

中学校教諭(理科)・高等学校教諭一種免許状(理科・農業)に加え、中学校二種(技術科)、また休暇期間中に開講されるサマー/ウィンターセッションを受講することで、在学中に小学校教諭二種免許状も取得可能です。

※ 教職課程の受講には条件があります。

取得可能な教育職員免許状

中学校教諭一種(理科)	高等学校教諭一種(理科・農業)
中学校教諭二種(技術)*	小学校教諭二種*

03 1年次より農学と教職の専門的・実践的授業がスタート！

児童・生徒に自然科学の面白さを生き生きと伝える。そんな教師を目指し、まずは自らが「ホンモノ」に触れる経験を大切にしています。1年次から教育現場での実習や、専門的な授業が開始されプロフェッショナルとしてのスキルを高めていきます。



実際の授業に即した独自の科目

「化学実験スキル」や「生物実験スキル」では、中学校や高等学校の理科で扱う実験や観察の正しい技術と指導法が身に付きます。「教材研究」では、新しい教材の開発・改良にも挑戦。



参観実習と教育インターンシップ

学ぶべき課題を明確にしたうえで臨む「参観実習」や「学校体験活動」、近隣の小中学校などで実践力を磨く「教育インターンシップ」を実施。4年次の教育実習に向けて、ステップアップしていきます。



学生による模擬授業の実施

理科や農学科の指導法、教育実習事前指導などの科目では、学生自身が模擬授業を実施します。授業後に生徒役の学生と活発な議論を交わし、同じ志をもったクラスメートと切磋琢磨しましょう。

Student's Voice

理科教育のプロフェッショナルを目指す仲間と学ぶ 緑豊かなキャンパスで専門性を高める4年間

4年 木村 海心 (神奈川県 横浜高等学校 出身)

理科教育コースには、将来は理科教員として教壇に立つことを夢見る学生が集まっています。1年次から高い意識を持って切磋琢磨しながら学びを重ね、理科教員として求められる専門性と実践力を着実に高めていくことができます。また、長期休暇を活用して小学校教諭二種免許の取得に挑戦したり、より実践的な実験指導に取り組んだりするなど、将来を見据えた学びの機会も充実しています。緑豊かなキャンパスで充実した教員養成カリキュラムのもと、理科教員としての力を培っていきける点が、理科教育コースの大きな魅力です。





環境農学科

自然や農業から学び、多様な文化を理解し
地域から地球規模の環境問題に挑む

定員数 70名 男女比率 男68%：女32%



※(講義要覧・シラバス照会)をクリックしてください。

学びの特色

持続可能な社会をつくるための農学を学修

農業生産は人類発展、また人と自然の調和による持続的で豊かな社会の実現には欠かせません。生産量向上と環境保全の両面から総合的に農業や自然への理解を深める学び、国際社会に貢献できる人材をさまざまな分野に輩出することを目指します。

国内外の多様なフィールドで学び、多角的な視点を養う

「地球環境プログラム」では海外留学をとおして育まれる国際的な視点で、また「地域環境プログラム」では国内の多様なフィールドでの学びをとおして、それぞれ農業や自然を理解することができます。

3年次から配属される2つの専門領域

3年次からどちらかの専門領域に所属し、3年次後半には専門分野に分かれます。両領域とも、国際的な視野で考え、身近な課題に取り組む姿勢を培います。

- 生態系科学領域** 生態系や地球環境の成り立ち、自然環境保全などを学びます。
- 持続的農学領域** 環境負荷が少ない農業技術や農業と社会のつながりなどを学びます。

▶ 4年間の学修の流れと主な開講科目

1年次 環境農学の基礎を養う・英語力の基礎を磨く

2年次 プログラムを選択し、応用力を身に付ける

01 2年次には自身の関心に合わせてプログラムを選択

地球環境プログラム

約4か月の海外留学で、環境に関する国際的な視点を養う

留学先 ニュージーランドなど 留学条件: TOEIC® L&R 400点以上

多国籍な環境で学べる語学プログラム さまざまな国の留学生とともに、英語スキルやコミュニケーション能力を磨きます。

フィールド調査を組み込んだ専門科目 教室外での実習や施設見学によって、自然・農業・環境などの専門科目を効果的に学びます。

英語圏の日常生活を体験 一般家庭でのホームステイをとおして、日常生活で必要となる自然な英語を修得できます。

留学中の修得単位を含めて、4年間で卒業可能 留学中の単位も玉川大学の卒業単位に含まれるため、4年間で卒業可能です。

地域環境プログラム

学外施設での多様な実学をとおして実践力を養う



北海道弟子屈農場 箱根自然観察林 鹿児島南さつま久志農場

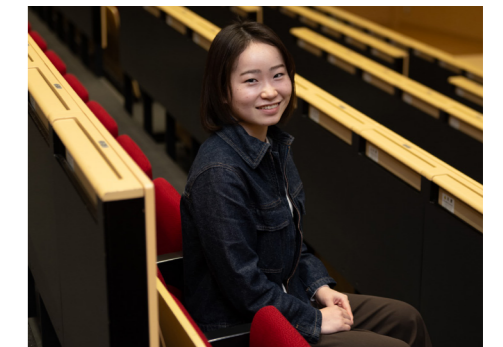
北は北海道弟子屈農場、南は鹿児島南さつま久志農場、さらにキャンパスからも日帰りで行ける神奈川県箱根町には自然観察林があります。寒冷地や温暖地など、地域性を活かした農業や自然環境を、実体験をとおして学びます。

Student's Voice

豊富なフィールドワークをとおして
環境・生態系から国際課題まで幅広く学ぶ

4年 梅原 結月 (神奈川県 横浜創英高等学校 出身)

環境農学科では、環境や生態系、国際的な課題など、農学に関わる幅広い分野について学び、研究していくことができます。在学する学生たちも昆虫などの生物に関心をもっていたり、国際的な環境問題をテーマにしていたりなどさまざまです。1年次に環境農学の基礎について学んだ後、大学内での農業実習や森林整備に加え、北海道や鹿児島での学外実習、ニュージーランドへの海外留学など、豊富なフィールドワークが用意されています。特定の地域や国に偏らず、グローバルな視点で農学について考えていくことが本学科の魅力です。



02 3年次からは知識を深める2つの専門領域へ

● 生態系科学領域



主な学問分野 里山生態学 / 環境動態学 / 環境リモートセンシング / 動物生態学 / 生態系生態学

2025年度卒業生の研究テーマ(一部)

- 玉川大学キャンパスにおけるタマノカンパオイの生育環境と個体特性
- 小河川における浸透性沈砂池を用いた浮遊砂除去と周辺環境への影響
- カメラトラップによるネズミ類とトガリネズミ類の生息調査法の検討
- バイオ炭散布が中型土壌動物の個体数および種数に与える影響
- 物体検出 AI を用いたミカンの果実品質の予測について探究します。

● 持続的農学領域



主な学問分野 持続的農業システム学 / 保全生物学 / 農学国際協力 / 持続的植物資源学

2025年度卒業生の研究テーマ(一部)

- 日本における播種時期がNERICA14の生育に及ぼす影響
- オオタニワタリの人工増殖に関する研究—幼体形成の効率化
- 日本の米粉市場の現状と展望に関する研究
- タンカンの屋根かけ栽培が高品質果実の生産に及ぼす影響

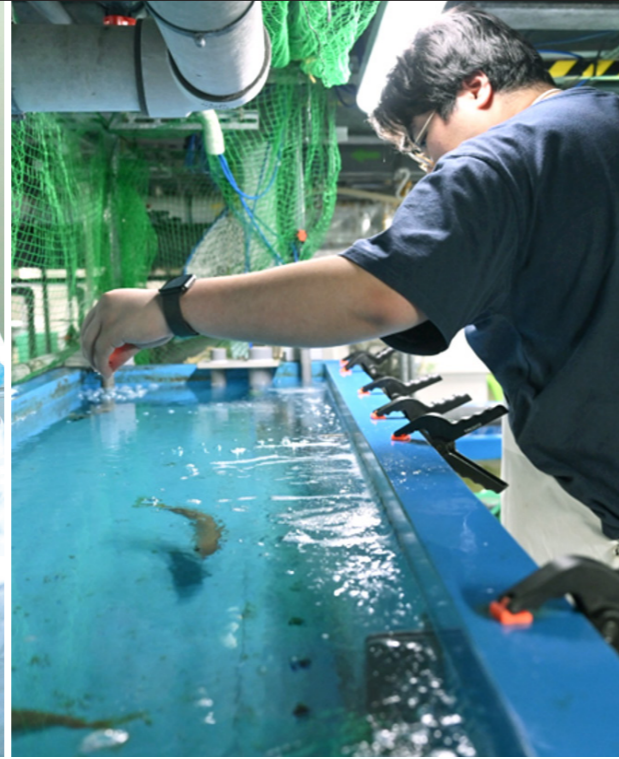
3年次 専門領域に分かれより深く学ぶ

4年次 テーマを発見し探究する

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
学科基幹講義科目	● 農業と自然環境 ● 環境と生態	● 化学入門 ● 生物学入門	● 環境農学概論	● 土壌生態学 ● 野生動物学	● 自然環境保全学 ● 統計学入門	3年次より深く学ぶ専門領域に所属します。		
実験実習科目	● 基礎生物学実験 ● 農場実習 A	● 農場実習 B	● 環境農学実験	● 環境農学実験	● Plant Science ● Natural Resource Management ● Regional Environmental Studies	● 植物形態の解析 ● 水質分析 ● 組織培養 ● 森林環境調査	● 水質分析 ● 組織培養	● 森林環境調査
英語開講科目	● ELF プログラム ● Intensive English A	● Intensive English B	● ELF プログラム ● Intensive English	● Plant Science ● Ecology ● Natural Resource Management ● Regional Environmental Studies	● 領域演習 A	● ELF プログラム ● Comprehensive Agri-Environmental Studies	● Practical English for Science	● 領域演習 B ● 卒業研究 B ● 卒業研究 A ● 卒業研究 C
実験実習の項目例	● 花の形態 ● トマト・水稻栽培 ● 植物の構造と機能 ● 顕微鏡操作法	● 細胞分裂の観察 ● 秋野菜の栽培調査 ● 里やま管理	● 植物形態の解析 ● 水質分析 ● 組織培養 ● 森林環境調査	● フィールド演習 A ● フィールド演習 B ● Regional Environmental Studies	● 植物成分の分析 ● 肥料成分の分析 ● 農業白書と解説発表 ● 動物行動解析	● ODA 白書の解説 ● GIS を利用した環境解析 ● 群落調査法	● 環境測定 ● 生態系機能評価 ● 無菌培養法	● 生態系機能のプロセスの研究 ● 森林構成要素の動態学的研究 ● 野生動物の行動生態研究

※ 科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。

文学部
農学部
工学部
経営学部
教育学部
芸術学部
リベラルアーツ学部
観光学部



先端食農学科

“食”の先端技術を研究
充実した施設でエキスパートを目指す

定員数 70名
男女比率 男58%：女42%



※(講義要覧・シラバス照会)をクリックしてください。

学びの特色

最先端の研究施設で 新しい食料生産を探求する

LEDを使用して野菜を生産する「Future Sci Tech Lab」や、海産物の陸上養殖を目指す「アクア・アグリステーション」、食料を安心して食べられるよう加工する「Food Science Hall」など、最新のテクノロジーを活用した研究・実習施設にて、先端技術を駆使した新しい食料生産のあり方を探究します。

食品科学と食品生産。 食に関するあらゆることが研究対象

衛生学、栄養学、分析化学。あらゆる角度から食品科学の知識と技術を吸収し、食品の役割や安全性、おいしさ、人の健康について研究します。さらに、食料生産技術や食品生産加工技術などを体系的に学び、既存の農業を超えた食料生産の仕組みに関わる専門的な知識と実践的な能力を身に付けます。

先端技術を使い、 新たな食づくりを見据える

食の安全性や健康に焦点を当てた、新たな「食」づくりに先端技術を使うことで、既存の農業の枠を超えた未来が見えてきます。学内に併設された研究・実習施設を利用し、卒業研究に取り組みながら、近未来型の食料生産に携わり、身に付けた技術を社会に活かせる人を目指します。

▶ 4年間の学修の流れと主な開講科目

1年次 生物と化学の基礎を身に付ける

セメスター	1	2
講義科目	●生物学 ●化学 ●有機化学 A	●分析化学 ●先端食農セミナー
実験実習科目	●基礎生物学実験 ●基礎化学実験	●フィールド総合実習 A
実験実習の項目例	●陽イオン定性 ●中和滴定 ●比色分析・旋光度 ●アセトアニリド合成	●トマトの栽培管理 ●茶摘み ●顕微鏡観察・染色法 ●魚の解剖

2年次 食料生産と食品科学の基礎を固める

セメスター	3	4
講義科目	●生物化学 A・B ●微生物学 ●有機化学 B	●食品機能化学 ●水産学 ●食品製造科学
実験実習科目	●先端食農実習 ●食品加工実習	●先端食農実験 ●フィールド総合実習 B
実験実習の項目例	●植物学実験 ●微生物学実験 ●食品科学実験 ●遺伝子工学実験	●LEDを用いた植物栽培 ●オリジナルアイスクリームの製造 ●缶詰やレトルト食品の製造 ●植物工場でのレタス栽培 ●食品添加物の調査・分析

01 植物栽培、水産資源養殖、食品加工。 最新技術を扱う実習・研究施設

「Future Sci Tech Lab」

温度や湿度、光などの栽培環境を人工コントロールした野菜生産実習施設です。植物栽培のために開発したダイレクト水冷型ハイパワーLEDを光源に、多段式水耕栽培システムでレタスなどを栽培します。場所を限定せず、作物が栽培できる新しい農業技術の開発を目指し、無農薬で安全な作物生産の実証実験に取り組みます。



「アクア・アグリステーション」

水産資源の新しい養殖技術を研究中。主に実施されているのは、“閉鎖環境”でのアワビや魚類の養殖。自然界でのエサの不足や、環境変化による個体数減少の問題をクリアし、人間が管理する環境で食料生産を目指します。海から遠く離れた場所でも安全に海産食品を生産できるようになる、夢のある研究です。



「Food Science Hall」

「たまがわアイスクリーム」など、玉川学園オリジナル商品の生産加工の拠点となる施設で、食品加工実習などに取り組みます。実験・実習を組み合わせる学際的な学びを深められるのもポイント。試作と評価を繰り返しながら、新しい食品生産システムを模索していきましょう。



02 3年次からは食料生産の 仕組みづくりの領域と、 食品の健康機能を研究する領域へ

システム農学領域

植物工場や陸上養殖など閉鎖された環境での食料生産や微生物などについての研究を行います。社会で役立つ食料生産システム技術やその考え方が身に付きます。

食品科学領域

食べ物のおいしさとは？人の健康に役立つ食の機能とは？安全・安心を担保した食品とは？研究をおとして、栄養学、分析化学などの知識と技術を身に付けます。

主な学問分野

植物生理学 / 生物環境工学 / 園芸学 / 水産学・養殖学 / 応用微生物学

主な学問分野

食品機能学 / 食品保蔵学 / 栄養生理学 / 食品加工学 / 発酵工学

03 「食」が身体をつくる。 栄養学×スポーツ分野に 関する学びも

さまざまな視点から「食」を見つめる学びがあなたを待っています。例えば、栄養学やスポーツ栄養学について、管理栄養士の資格を持った教員から学ぶこともできます。玉川大学陸上競技部女子駅伝チームの食事をテーマに調査する学生も。人の食と運動のつながりを考察しながら、これからの健康についての知見を深めましょう。

Student's Voice

最新技術と充実した研究室で学び 食と農の未来について考える

3年 山下 義愛 (東京都日本工業大学駒場高等学校 出身)

先端食農学科では、「アクア・アグリステーション」や「Food Science Hall」をはじめ、最新技術を扱う実習・研究施設が充実しています。講義で学んだ内容を実験や実習につなげることができるため、理解を深めながら学びを積み重ねていくことができます。また、1・2年次で基礎知識をしっかりと身に付けたうえで、システム農学領域と食品科学領域を選択できるとい、自分の関心や将来像に応じて専門性を深めていける点も本学科の魅力だと思います。農業の最先端に触れながら、食と農の未来について一緒に考えていきましょう。



3年次 専門領域に所属し、 実習・演習に取り組む

セメスター	5	6
講義科目	●食品衛生学 ●応用栄養学	●畜産物利用学 ●植物生理学
実験実習科目	●専門領域研究 A ●専門領域研究 B	●フィールド総合実習 C
実験実習の項目例	●野菜の栽培と成分分析 ●水性生物の遺伝子解析 ●食品中の微生物の分析 ●野菜の抗酸化力の測定	●発酵食品の製造 ●肉製品の製造 ●北海道や鹿児島等の学外校地での実習 ●農産物の加工と保蔵

4年次 専門領域を 追究する

セメスター	7	8
講義科目	3年次より深く学ぶ専門領域に所属します。	
実験実習科目	●卒業研究 A ●卒業研究 B	●卒業研究論文
実験実習の項目例	●LED植物工場システムに関する研究 ●水産物の陸上養殖に関する研究 ●キノコの栽培法に関する研究 ●食品の機能性成分に関する研究	●発酵・醸造に関する研究 ●スポーツ栄養に関する研究 ●微生物検出法に関する研究 ●熱帯果樹の栽培と加工に関する研究

※ 科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。